

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	ふれあい館・桜本こども文化センター	評価対象年度	平成21年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 青丘社 ・代表者名 理事長 斐 重度 ・住所 川崎市川崎区桜本1-8-22	評価者	青少年育成課長
指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日	所管課	市民・こども局こども本部子育て施策部青少年育成課

2. 事業実績

利用実績	1 ふれあい館・桜本こども文化センター ①年間延べ利用者数 55,039人 ②年間延べ利用団体数 999団体 2 桜本小学校わくわくプラザ ①登録者数 97人 ②年間延べ利用者数 7,755人 3 東桜本小学校わくわくプラザ ①登録者数 106人 ②年間延べ利用者数 6,659人 4 大島小学校わくわくプラザ ①登録者数 248人 ②年間延べ利用者数 15,368人 5 東大島小学校わくわくプラザ ①登録者数 202人 ②年間延べ利用者数 16,932人
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 142,023,918 2 支出 人件費 111,369,828 管理費 11,934,456 事務経費 7,068,220 その他経費 697,287 --- 合計 --- 131,069,791 -3 差引 10,954,127
サービス向上の取組	こども文化センター・わくわくプラザの管理運営だけでなく施設の特徴である、ふれあい館事業・高齢者交流事業・高齢者相談事業を継続して実施した。

3. 評価 (評価段階:5~1、標準:3、加点割合:5→100%、4→80%、3→60%、2→40%、1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	順調に事業の推進が図られているか	10	5	10
	事業成果	こども文化センターの利用者数が増えているか。	5	3	3
(評価の理由) 設立当初から運営に携わっている団体として、他の団体ではできない施設目的をよく理解した運営を行っており、また、障害児タイムケアモデル事業等の受託も受けており、館を中心とした連携を図り事業に取り組んでいた。さらに、韓国・朝鮮やフィリピンといった国々の文化に関するクラブ活動や多文化共生に係る講座、近隣中学校や教育委員会と連携を図った学習サポート等特色ある事業を実施していた。こども文化センターの利用者は管理委託時(H17年度)と比較し、ほぼ変わらなかった。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な支出がされているか	5	4	4
		支出に見合う効果が得られているか			
効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組が為されているか (評価の理由) 会計処理が適切になされるとともに、支出額と指定管理料を比較し、5%以上の黒字となり、経費縮減が図られた。					
サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	5	3	3
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会が実施されているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会が実施されているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	5	10
利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	5	4	4	
	把握したニーズが事業運営へ反映されているか				
(評価の理由) 多数の視察者に対し、視察の機会に施設の情報を積極的に発信し、広報拡大に努めた。また、年80回を越える地域や行政の様々な委員会や協議会等へ出席し、情報交換、情報発信等を行い事業の充実のために地域との連携を強化していた。さらにニーズの把握については、意見箱の設置に際し、意見を受ける担当者を明示することや、メールでも意見を受け付けるなど工夫が見られた。					

組織管理体制	適正な人員配置	<p>こども文化センターにおいて、利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか</p> <p>わくわくプラザにおいて、利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか</p> <p>事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか</p>	10	4	8
	職員の研修体制	<p>予定していた研修が実施されているか</p> <p>職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか</p>	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
(評価の理由) 施設の設置目的でもある日本人と在日外国人との相互理解などの専門知識や経験のある職員を採用し、適切な運営を図った。また大学講師や発達相談支援センター等専門性の高い講師による研修を実施し、職員の資質向上を図っていた。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害時の対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
災害発生時のマニュアル等が整備されているか					
(評価の理由) 提案を上回ってトイレ及び屋外掲示板等、積極的に修繕を行っていた。また施設整備安全点検委員会を設置し、2ヶ月に一度施設の安全点検を実施した。					

4. 総合評価

評価点合計	75	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点、標準点:60点

評価ランク:A~E、標準:C、A→90点以上、B→80点以上90点未満、C→60点以上80点未満、D→40点以上60点未満、E→40点未満
A→特に優れている、B→優れている、C→適正である、D→改善が必要である、E→問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

昨年度に引き続き、指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、施設の特徴を良く理解し管理運営に当たっていた。また、今年度も国際色のある行事を実施していたことや、ボランティアの協力を得て、高齢者との交流や相談の業務を積極的に実施し、事業の充実に努めていた。行事についても、ふれあい館とこども文化センターと連携してお互いの特色を生かした、世代間交流や地域の方々との交流を進めていた。

当施設は、その多彩で特色ある活動内容から、大学、自治体及び報道関係者等内外からの視察者の来館が多数あり、その機会を活用して情報発信を積極的に行い、広報に努めていた。また、地域や行政と連携する機会も多く、情報交換及び情報発信等を行い事業の充実のために地域や行政との連携を強化していた。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

次年度も引き続き経験を生かし、地域に根ざした管理運営を実施すること。また事業の実施に当たっては、地域の状況に合わせ特色ある行事の実施等を行うこと。また、事業の実施手法についても、障害児タイムケアモデル事業等の事業を受託していることから、それらの事業との連携もさらに深め事業の充実に努めること。